

農林水産大臣 小泉 進次郎 殿

公益社団法人日本農業法人協会
会 長 齋藤 一志

令和 6 年産米の消費者価格高騰等を踏まえた緊急要望

令和 6 年産米の消費者価格が、令和 5 年産米に比べておよそ 2 倍の水準で流通する状況が続くなか、安価な輸入米が流通し始めるなど、消費者が国産米から離れていくことが危惧される状況にある。そうした場合、米の生産基盤が弱体化しかねず、国の食料安全保障を脅かす事態になり得る。

政府の機動的な備蓄米の放出などにより、米の消費者価格の高騰は沈静化に向かいつつあるが、価格は市場に委ねられるものであり、これは緊急的な措置である。そのため、適正な農畜産物の消費者価格の形成と生産者の生産性向上が急務である。農業法人が国民への食料安定供給の中心的役割を果たし、効率的かつ安定的な農業経営を目指していくために下記事項を申し入れる。

記

1 米の安定した供給と流通の実現

- (1) 米の生産・流通・消費に影響を与える収穫量調査の現状と課題を整理の上、生産現場の実態をより正確に把握し、調査精度の向上を実現すること。
- (2) 米の適正な価格形成を実現するためには、流通過程の可視化と短縮化が必要であり、現状のコメ流通に関する検証を行うこと。
- (3) 米の安定供給には消費者の理解と協力が不可欠であり、国民に対し食育に関する施策を総合的かつ計画的により一層推進すること。

2 農畜産物等の適正価格の実現

- (1) 農畜産物や食品の価格形成に関する関連法が成立したことを受けて、農畜産物の生産コスト構造を明らかにしつつ、地域差や原材料高騰なども踏まえた生産コストや需給状況を適切に反映して価格形成されるよう実効性のあるものとする。
- (2) 農畜産物の生産コスト高を抑制するため、農業用施設の設置コスト増加要因に繋がる各種規制等を抜本的かつ速やかに見直すこと。また、農業競争力強化支援法を踏まえ、生産資材及び機械の価格の引き下げや流通の合理化など農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決し、国際競争にも対応できる日本農業の競争力強化を推進すること。

3 生産性の向上の実現

- (1) 速やかに基盤整備事業を実施し、優良農地の担い手への集積・集約化を進めることが急務である。そのために必要となる地域計画のブラッシュアップや農地バンクの機能強化を速やかに推進すること。
- (2) スマート農業技術の開発は、生産現場において使い勝手が良く実用的かつ費用対効

果の高いものとし、収穫作業に人手を要する野菜や果樹等に対する研究・開発を強力に推進すること。

4 持続可能な農業の実現

- (1) 食料安全保障の観点から、飼料用米やWCSなど畜産農家をはじめとする実需者のニーズの高い耕畜連携を継続的に推進すること。
- (2) 農業者が安心して経営できるよう、農業者のニーズや実態に即した収入保険制度への見直しなど経営安定対策の充実を図ること。

以上